

幼稚園教諭養成課程における授業科目のシラバスの例

【目次】

教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	頁
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	現代教職論	1
	教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。）		
	進路選択に資する各種の機会の提供等		
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育基礎論	3
		教育史	4
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と学習の心理学	5
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育社会学	6
		教育制度論	7
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	幼児教育課程論	8
	保育内容の指導法	幼児総合指導法	9
		保育内容(健康)	10
		保育内容(人間関係)	11
		保育内容(環境)	12
		保育内容(言葉)	13
		保育内容(音楽表現)	14
		保育内容(造形表現)	15
		保育内容(児童文化)	16
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	17
		教育情報メディア実習	18
マイクロティーチング実習		19	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	幼児臨床心理学	20
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

学科(専攻)・科目の種別等	共通教職	授業コード	E1K145701	教職の意義等に関する科目 ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、含む及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	
		授業の方法	講義		
		期別	前期		
授業科目	現代教職論② Studies of Teaching Profession				
副題	教育実践的な視点から見た教師の姿				
担当教員					
履修年次/セメスター	1年 前期	時間数	30	受入人数	
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)				
	他学部(他研究科)				
	科目等履修生		可		
教室等	教2208				
概要	教員の職務の特質や意義について、教育現場で実際に教育活動に従事する講師から提供される話題なども含めながら論じる。				
目的・目標	<p><目的> 教員の職務の特質や意義について理解する。また、単なる机上の空論になることを避けるために、教育現場で実際に教育活動に従事する講師から提供される話題を通して現代の教育の実情に触れながら理解を深めてゆく。</p> <p><目標> ・教員の職務の特質や意義について理解できるようになる。(知識・理解) ・また、教員の職務の特質や意義について自分なりに考察することができるようになる。(思考・判断) ・また、単なる机上の空論になることを避けるために、教育現場で実際に教育活動に従事する講師から提供される話題を通して現代の教育の実情に触れながら理解できるようになる。(態度) ・実際に教育現場で活躍する講師の講義を通して教育に対してより日常的な興味・関心をもつことができるようになる(興味・関心)</p>				
授業計画・授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:教員免許法が定める教職に関する科目のなかでの「現代教職論」の位置づけについて 2. 教員とは:教員という職業のありかたについて近代の日本の教育制度の変遷に沿って検討する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 3. 今日の教員の職務(1):授業, 学級経営, 生徒指導, 校務分掌など教員の仕事をさまざまな角度から考察する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 4. 今日の教員の職務(2):現職教員へのインタビュー(録音, ビデオ等)などを用いながら教員の職務について考察。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 5. 今日の教員の職務(3):(上記の(2)のつづき)復習:ノート 予習:資料等を教示する。 6. 教員と他の職業:他の職業との比較を通して教員の独自性(身分, 服務, 研修など)について考察する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 7. 現代の教員に求められるもの(1):免許更新制度など, 現在, 教員のありかたをめぐって行われている議論について。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 8. 現代の教員に求められるもの(2):マスコミを賑わしている教員の不祥事について新聞記事などを素材に考える。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 9. 諸外国の教員:欧米各国では教員の資質としてどのようなものが求められているかを概観する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 10. 教員の生活とストレス:教員や福祉職などに従事する者の燃え尽き(バーンアウト)症候群について考える。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 11. 教員の人生:教員の人生を綴った手記をとおして教員の人生について考察する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 12. 教員の適性:みずからの教員の適性について考える(小レポートなどを課す予定)復習:ノート 予習:資料等を教示する。 13. 小学校教諭:とくに小学校教員として求められている適性について考察する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 14. 幼稚園教諭:とくに幼稚園教員として求められている適性について考察する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 15. 特別支援学校教諭:とくに幼稚園教員として求められている適性について考察する。復習:ノート 予習:資料等を教示する。 				
キーワード	教師 教職				
教科書・参考書	適宜指示。				
評価方法・基準	毎回の授業時に提出してもらおう小レポート(合計80%)ならびに小論文(20%)提出してもらいそれをもとに評価する。				
履修要件	指定された時間割に添って履修すること 予備知識などはとくに不要				
備考	<p>授業の日程等について初回の授業時に詳しく説明するので、必ず、出席すること。</p> <p>履修に際しては予習、復習が義務づけられています。予習、復習の具体的な内容などについては授業の進捗により多少変更することがあります。したがって、詳細は毎回の授業の終了時にお話しします。もし、病気等で欠席してしまった場合も、予習、復習などは必要になりますので、その場合は、必ずメールで連絡してください。詳細について返答いたします。</p>				

開講時に、学生の受講動機、受講に際しての要望(ニーズ)を聴取する予定

この授業内容に興味をもちさらに学習を深めたい場合は遠慮なくオフィスアワー等に訪問すること。学習の深め方は人によってさまざまなので各自の要望を聞いて参考書等を教示する。

同様に授業内容が難解で分からない場合もオフィスアワー等に訪問すること。各自にあった学習指導を行う予定である。

教育の基礎理論に関する科目

・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

科目名	教育基礎論 Foundations of Education		
担当教員	[REDACTED]		
標準履修年次	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位区分	選必
授業方法	講	単位数	2
準備事項			
備考			
授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)	教育の意義と本質、教育目的等を概観して、教育の理論と実践についての基本的認識を深め培う。		
授業の内容・計画	本年度は、以下の事項について講述する(第1回～第7回までは安部が担当し、第8回～14回までは大関が担当する)。		
	回	内容	
	1	教育の意義と本質(1)「教育」を対象化すること	
	2	教育の意義と本質(2) 人間と社会	
	3	教育の意義と本質(3) 憲法と教育基本法	
	4	教師と学校(1) 教師の仕事	
	5	教師と学校(2) 学校という場	
	6	教師と学校(3)「教える」と「学ぶ」	
	7	近代日本の教育	
	8	学校教育をめぐる諸問題	
	9	学校教育の成立と展開(1) 学校の起源	
	10	学校教育の成立と展開(2) 大学の成立	
	11	学校教育の成立と展開(3) 近代公教育の理念と国民学校の成立	
	12	学校教育の成立と展開(4) 統一学校運動と新教育運動	
	13	学校化社会の限界を超えて(1) 学歴社会の問題	
	14	学校化社会の限界を超えて(2) 生涯学習社会における学校の役割	
15	試験		
成績評価の方法・基準等	試験		
テキスト・教材・参考書等	教科書は講義のなかで指示する。(安部) 参考書等は講義のなかで指示する。(大関)		
その他			

教育の基礎理論に関する科目

・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

科目名	教育史 History of Education		
担当教員			
標準履修年次	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位区分	選必
授業方法	講	単位数	2
準備事項			
備考			
授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)	日本および西洋の教育の歴史を時代の大きな流れの中で通観するとともに、各時代の教育を特徴づける思想と理念を、現代の教育との関連性を考慮しながら理解できるようにする。そのことを通して、教育に関する比較史的視点を修得するとともに、今日の教育課題に対して歴史的に考察する能力を形成する。		
授業の内容・計画	<p>日本および西洋の教育の歴史を時代の大きな流れの中で通観するとともに、各時代の教育を特徴づける思想と理念を、現代の教育との関連性を考慮しながら理解できるようにする。そのことを通して、教育に関する比較史的視点を修得するとともに、今日の教育課題に対して歴史的に考察する能力を形成する。</p> <p>授業の内容・計画 I. 講義についてのオリエンテーション(第1回) II. 日本の教育の歴史(思想と理念を含む) ①古代国家の成立とその教育体制(第2回) ②大陸の教育文化と国風化(第3回) ③ヨーロッパ(西・葡・蘭等)文化と宋明文化の摂取(第4回) ④幕府・諸藩の教育政策と学校(第5回) ⑤大衆文化の発達と教育の普及(第6回) ⑥幕末維新期における教育近代化の胎動(第7回) III. 西洋の教育の歴史(思想と理念を含む) ①古代ギリシャにおけるパイデイアー(第8回) ②中世ヨーロッパの日常生活と人間形成(第9回) ③近代における子どもの「発見」と教育(第10回) ④学校教育制度の整備とひずみ(第11回) ⑤新教育運動の生起と展開(第12回) ⑥戦時下の教育と戦後の教育(第13回) IV. 講義のまとめ 現代に生きる教育の思想と理念(第14, 15回) -日本と西洋の教育の比較から-</p> <p>(IIは安部、IIIは渡邊が担当し、IとIVは安部、渡邊の2名で担当する。)</p>		
成績評価の方法・基準等	授業への参加状況と試験。試験は日本と西洋それぞれについて行い、試験成績の合算により評価を行う。		
テキスト・教材・参考書等	授業の中で適宜指示する。		
その他			

学科(専攻)・科目の種別等	共通教職	授業コード	E1K000101	教育の基礎理論に関する科目 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)
		授業の方法	講義	
		期別	前期	
授業科目	発達と学習の心理学① Psychology of Development and Learning			
担当教員				
履修年次/セメスター	1年(小学校課程)			
教室等	教2208			
概要	教師が児童に対する関わりを行う際に、児童の心の発達プロセスや、学習の状況・あり方に関する基本的な知識を有していることは極めて重要である。本講義では、発達や学習に関わる最新情報も取り入れながら、基礎的な内容について学び、教育活動における基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。			
目的・目標	児童の発達のプロセスや学習の状況・あり方等について学ぶことを通して、教育活動にかかわる基礎的・実践的な力量を養い、児童の心に配慮した教師の関わりについての考えを深めることを目的とする。			
授業計画・授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:教育の基礎理論としての「発達と学習」の位置づけと授業の進め方について。 2. 発達と学習とは(1):主として発達にかかわる視点や基礎知識を概説する。 3. 発達と学習とは(2):主として学習にかかわる視点や基礎知識を概説する。 4. 発達の規定因:発達を規定する要因は何か(遺伝か環境か)についてさまざまな角度から論じる。 5. 乳幼児の有能性と愛着:乳幼児の運動機能、知覚発達、愛着に焦点をあて、乳幼児期の有能性とその発達について論じる。 6. 社会性の発達:道徳性、向社会性、遊びや友人関係の発達に焦点をあて、社会性の発達について論じる。 7. 認知発達:ピアジェやヴィゴツキーの考え方、領域固有性に関する知見を通して認知発達について論じる。 8. 発達障害とは(1):学校教育現場において対応が望まれているADHDとその対応について概説する。 9. 発達障害とは(2):学校教育現場において対応が望まれている学習障害(LD)、自閉性障害とその対応について焦点をあてて概説する。 10. 記憶と知識獲得:学習に大きくかかわる記憶と知識獲得のメカニズムについて論じる。 11. 行動変容と学習:条件づけや学習場面の応用について論じる。 12. 学習への動機づけ:学習への動機づけ(やる気)のメカニズムについて論じる。 13. 教授学習:教授の方法と児童・生徒の理解過程について論じる。 14. 個人差の測定:学力等の測定についての考え方、テストの信頼性・妥当性について論じる。 15. 教育評価:教育評価の意味、方法、児童・生徒の学習への影響について論じる。 16. テスト 			
教科書・参考書	毎回プリントを配布する。教育心理学的内容に関わるVTRや新聞記事なども適宜用いる。テーマに応じて心理学(または教育心理学、発達心理学)分野の参考文献について紹介する。			
評価方法・基準	授業時に毎回ミニレポートの提出を求める。最終授業時に試験(論述形式)を行う。試験60%毎回のミニレポートを40%で評価する。			

教育の基礎理論に関する科目

・教育に関する社会的、制度的
又は経営的事項

科目名	教育社会学																																		
担当教員	[REDACTED]																																		
標準履修年次	3年	クラス																																	
講義室		開講学期	後期																																
曜日・時限	金4	単位区分	選必																																
授業方法	講	単位数	2																																
準備事項																																			
備考																																			
授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)	<p>私たちは日頃から、身近に教育を受けているため、教育を受けることを特別と捉えない傾向がある。しかし、実際には全ての人々が同じ教育経験を有したり、平等な教育機会に恵まれているわけではない。本講義では、実際の教育現場で起こっている格差や不平等について、海外や日本国内のケースを参照しながら、知識を深めることを目標とする。また児童生徒が抱える多様な背景や、彼らが抱える問題の多様性に気づき、(将来の教員として)学校内の多様な児童生徒の背景に対応できるノウハウやスキルを身につけることを学習効果とする。特に、近年増え続けている外国人児童生徒に注目し、彼らに対する教育の支援の在り方について実践的な知識を身につける。</p>																																		
授業の内容・計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション—教育社会学とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教育機会の平等／不平等(1)身近な教育格差を捉える(国内のケース)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教育機会の平等／不平等(2)移民・難民の教育達成(海外のケース)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>教育機会の平等／不平等(3)教育機会の是正のために(Affirmative Action)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>教育機会の平等／不平等(4)開発途上国を事例として(民族間に生じる教育格差)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>教育機会の平等／不平等(5)開発途上国を事例として(教育格差の解決のために)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学校の中の多様性(1)子どもの多様性とインクルーシブ教育</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学校の中の多様性(2)いじめ・不登校</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学校の中の多様性(3)家庭と学校—貧困・単親家庭</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学校の中の多様性(4)病気の子どもと学校—院内学級</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学校の中の多様性(5)多様性への対応を学ぶ—発達障害</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学校の中の多様性(6)インクルーシブ教育のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>現代の教育課題(1)外国人児童生徒の受け入れ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代の教育課題(2)教育機会の平等に向けて</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のまとめ(試験)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション—教育社会学とは	2	教育機会の平等／不平等(1)身近な教育格差を捉える(国内のケース)	3	教育機会の平等／不平等(2)移民・難民の教育達成(海外のケース)	4	教育機会の平等／不平等(3)教育機会の是正のために(Affirmative Action)	5	教育機会の平等／不平等(4)開発途上国を事例として(民族間に生じる教育格差)	6	教育機会の平等／不平等(5)開発途上国を事例として(教育格差の解決のために)	7	学校の中の多様性(1)子どもの多様性とインクルーシブ教育	8	学校の中の多様性(2)いじめ・不登校	9	学校の中の多様性(3)家庭と学校—貧困・単親家庭	10	学校の中の多様性(4)病気の子どもと学校—院内学級	11	学校の中の多様性(5)多様性への対応を学ぶ—発達障害	12	学校の中の多様性(6)インクルーシブ教育のまとめ	13	現代の教育課題(1)外国人児童生徒の受け入れ	14	現代の教育課題(2)教育機会の平等に向けて	15	講義のまとめ(試験)
回	内容																																		
1	オリエンテーション—教育社会学とは																																		
2	教育機会の平等／不平等(1)身近な教育格差を捉える(国内のケース)																																		
3	教育機会の平等／不平等(2)移民・難民の教育達成(海外のケース)																																		
4	教育機会の平等／不平等(3)教育機会の是正のために(Affirmative Action)																																		
5	教育機会の平等／不平等(4)開発途上国を事例として(民族間に生じる教育格差)																																		
6	教育機会の平等／不平等(5)開発途上国を事例として(教育格差の解決のために)																																		
7	学校の中の多様性(1)子どもの多様性とインクルーシブ教育																																		
8	学校の中の多様性(2)いじめ・不登校																																		
9	学校の中の多様性(3)家庭と学校—貧困・単親家庭																																		
10	学校の中の多様性(4)病気の子どもと学校—院内学級																																		
11	学校の中の多様性(5)多様性への対応を学ぶ—発達障害																																		
12	学校の中の多様性(6)インクルーシブ教育のまとめ																																		
13	現代の教育課題(1)外国人児童生徒の受け入れ																																		
14	現代の教育課題(2)教育機会の平等に向けて																																		
15	講義のまとめ(試験)																																		
成績評価の方法・基準等	出席10%(参考程度)、試験60%、レポート30%																																		
テキスト・教材・参考書等	乾 美紀・中村安秀編著(2009)『子どもにやさしい学校—インクルーシブ教育をめざして』、他、適宜配布する。																																		
その他																																			

教育の基礎理論に関する科目
 ・教育に関する社会的、制度的
 又は経営的事項

科目名	教育制度論 Educational Systems		
担当教員	[REDACTED]		
標準履修年次	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位区分	選必
授業方法	講	単位数	2
準備事項			
備考			
授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)	<p>本講義では、各学校での教育活動を支える教育行政(文部科学省や教育委員会)の組織やその働き、各学校の経営の仕組みを概説することを通じて、受講者が学校教育制度や現代教育改革について理解を深めることを目的とします。</p> <p>そして、次のような力量を受講者が養っていくことを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営や教育行政(公教育の条件整備)に関わる基本的な法令・用語についての基本知識。 ・学校経営や教育行政(公教育の条件整備)についての様々な課題や論争点について、時に諸参考文献を読み解き、自分なりに意見表明できる力量。 ・現代教育改革による学校環境の変化について理解し、教員として最適な法行動をとることができる資質・視野。 		
授業の内容・計画	<p>第1回 授業オリエンテーション(授業の全体像の解説や受講上の注意) 第2回 公教育の基本原則 第3回 学校教育に関する制度 第4回 教職員と人事管理に関する制度 第5回 教育内容・教育課程に関する制度 第6回 教育行政の組織と役割①-文部科学省の機能- 第7回 教育行政の組織と役割②-教育委員会の機能- 第8回 学校の組織と運営の仕組み①-学校の職制と組織- 第9回 学校の組織と運営の仕組み②-学校のマネジメント・サイクル- 第10回 学校の組織と運営の仕組み③-学校と家庭・地域社会の関係構築- 第11回 学校の組織と運営の実際-実務者の視点から- 第12回 現代教育改革と教育制度①-日本の教育改革の経緯と背景- 第13回 現代教育改革と教育制度②-2000年代教育改革の内容と特徴- 第14回 現代教育改革と教育制度③-地域の教育改革の可能性- 第15回 講義のまとめと期末試験</p> <p>※講義を基本とするが、可能であれば学校経営や教育行政の実務者等の講話の機会も組み込む工夫をします。 ※各回の講義の理解を高めることを意図した予習を提示することがあります。</p>		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験(75%) ・出席や予習等課業への取組の状況(合計25%) <p>※学期末試験の受験が、単位取得の必須条件です。 ※教育制度に関する書籍の読書や教育行政に関する会議等への参加などの主体的学習について、レポート提出の条件を付して成績評価に加味します(初回授業時に説明します)。 ※私語など他の受講者の学習の妨げとなる行為が認められる場合、学期末試験の受験資格を認めないなどの対応をとります。</p>		
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト:テキストは用いず、授業者が準備する資料で授業を行います。 ・参考文献:諏訪英広他編『教育制度と教育の経営』あいり出版2011年。 篠原清昭編『学校のための法学(第二版)』ミネルヴァ書房2008年。 窪田眞二監修『教育課題便覧』学陽書房(最新版)。 『必携 学校小六法』共同出版(最新版)。 <p>その他、授業内に適宜参考文献を提示します。</p>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学から配布された学籍番号アドレスに連絡を投じることがあります。 ・授業時の説明の一部をウェブページに掲載することがあります。 (研究室url: http://web.hyogo-u.ac.jp/ohnoy/index.html) 		

学科(専攻)・科目の種類等	幼児	授業コード	E10410001	教育課程及び指導法に関する科目 ・教育課程の意義及び編成の方法	
	授業の方法	講義・演習		
		期別	後期		
授業科目	幼児教育課程論 Curriculum in Early Childhood Education				
担当教員					
履修年次／ Semester	1年次／後期	時間数	30	受入人数	80名程度(使用教室の都合及び学習の質の確保のため)
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)	可			
	他学部(他研究科)				
	科目等履修生	可			
教室等	教4408				
概要	構成主義に基づく幼児教育のカリキュラムを中心に、日本で行われている特徴的な幼児教育プログラムを発達理論の観点から検討する。 また、望ましい学習や発達を引き出す活動の原則について考える。				
目的・目標	幼児教育の内容と方法の両方を扱い、幼児の経験や活動の選択の原則について学ぶとともに、幼児教育プログラム(カリキュラムデザイン)について考察する。				
授業計画・授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基本と教育課程・保育課程 2. 保育内容の変遷と教育課程 3. 教育課程・保育課程の実際 4. 教育課程と保育の考え方 5. 教育課程と子ども観 6. 乳幼児期のあそびと学び 7. 保育内容と領域 8. 発達の理解と教育課程の編成 9. 教育課程と保育理念(1)世界の教育アプローチからの検討 10. 教育課程と保育理念(2)日本の様々な特徴的アプローチからの検討 11. 教育課程の実際(1)特色ある教育課程の編成の実際 12. 教育課程の実際(2)地域との連携を活かした教育課程の編成 13. 教育課程の実際(3)子育て支援を活かした教育課程の編成 14. 教育課程の発表(各自が作成した) 15. これから求められる教育課程とその評価 16. 定期試験は実施せず 				
キーワード	教育課程、保育課程、保育理念、子ども理解				
教科書・参考書	テキスト 「教育課程総論」小田豊・神長美津子編著 北大路書房 参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」その他プリントを配布予定				
評価方法・基準	課題提出50%(授業中2~3回小論文などを課す) 受講態度や受講状況30%、演習への取り組み20%				
関連科目	保育内容「環境」「人間関係」「環境」「言葉」 幼児教育概説				
履修要件	・幼稚園教員養成課程および幼児教育副専攻(1種)の学生を優先する ・上記の学生の受講は原則として3年時以降に限る(1回目講義時に人数制限を行う) ・教育実習で3週間以上欠席する場合は原則として受講できない				

学科(専攻)・科目の種類等	幼児	授業コード	E10417001	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法
	授業の方法	講義	
		期別	前期	
授業科目	幼児総合指導法 Teaching Methods in Early Childhood Education			
担当教員				
履修年次/セメスター	2年次・前期	受入人数	60名程度	
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)			
	他学部(他研究科)			
	科目等履修生	可		
教室等	教4408			
概要	幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する能力を身につける。具体的にはテキスト、視聴覚教材(映像)を中心に、以下の内容について講義形式で行う。			
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領における幼稚園教育の理念、基本を理解する ・乳幼児期の発達をふまえ、幼稚園教育の方法的特質を理解する。 ・幼稚園教育要領の各領域におけるねらい及び内容の関連を理解する。 ・幼稚園教育の指導計画の作成を理解する。 			
授業計画・授業内容	第1回:幼稚園教育の基本 第2回:乳幼児期の発達と幼稚園教育の方法的特質 第3回:幼稚園教育の基盤となる子ども理解 第4回:幼児期のふさわしい生活の展開 第5回:環境を通しての教育① 環境を通しての学び 第6回:環境を通しての教育② 環境構成の実際 第7回:遊びを通しての指導① 乳幼児期の発達と遊び 第8回:遊びを通しての指導② 乳幼児の遊びの生成と展開 第9回:遊びを通しての指導② 乳幼児の遊びに対する援助 第10回:保育における個と集団の関係 第11回:発達の時期に応じた指導のあり方 第12回:保育計画の実際(教育課程・長期計画・短期計画) 第13回:行事を生かした保育の展開 第14回:幼稚園教育における家庭・地域との連携のあり方 第15回:保育実践を高める省察・カンファレンス 第16回:試験			
教科書・参考書	テキスト ・森上史朗・渡辺英則・大豆生田啓友(編)(2001)『新・保育講座⑥ 保育方法・指導法の研究』ミネルヴァ書房 ・幼稚園教育要領 参考書・参考資料等 ・必要に応じて適宜指示・配布する			
評価方法・基準	①平常点:毎回授業時に課す簡単な課題への回答(30%) ②課題:指導案作成課題の提出と評価(10%) ③試験:第16回に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価。(60%) ● ①～③を総合的に評価する。			
履修要件	・受講者の人数が多い場合は、人数制限をすることがある。 ・幼稚園課程の学生と幼児教育副専攻試験に合格した学生(幼稚園教諭一種の免許取得をめざす学生)を優先する。 ・上記以外の学生は、履修は原則として3年次以上にかぎる。 ・教育実習で3回以上欠席する場合は、次年度に履修をまわすこと。			

学科(専攻)・科目の種別等	幼児	授業コード	E10406501	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法	
	授業の方法	講義		
		期別	後期 隔週1・3		
授業科目	保育内容(健康) Activities in Early Childhood Education :Health				
担当教員					
履修年次/セメスター	2/後期	時間数	全16回(隔週)	受入人数	50名程度
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)	可			
	他学部(他研究科)				
	科目等履修生	可			
教室等	教4408 教4408				
概要	現代の乳幼児が置かれている状況や気になる子どもの具体的な姿を学生から聞き、生涯にわたる健康の土台、基礎となる乳幼児期の健康について考える。そして、幼稚園教育要領における「健康」の位置づけ、ねらいと内容について講義し、教師の役割を考察する。また、乳幼児にとっての遊びの意義、安全の指導についても講義し、身体的側面、運動的側面、精神的側面の発達について理解することで、幼児期により適切な指導(かわり)ができるようになることを目指す。具体的には、テキストを中心に、以下の内容について講義形式で行う。				
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育における「健康」の位置づけ、幼稚園教育要領の領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 ・乳幼児期の身体発達、運動発達、生活習慣の発達、心理的発達等を理解する。 ・幼児教育の基本である「遊び」の捉え方を理解する。 ・乳幼児の発達の特徴との意味を踏まえ、ふさわしい運動遊びの指導、生活習慣の指導、教師の役割を理解する。 ・乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。 				
授業計画・授業内容	第1回:オリエンテーション～気になる乳幼児の姿とは？ 第2回:健康とは / 幼児の健康の意義 第3回:領域「健康」のねらい 第4回:領域「健康」の内容および内容の取扱い 第5回:領域「健康」の指導の基本 第6回:「遊び」とは 第7回:乳幼児期の身体の特徴 第8回:乳幼児期の生理的機能の発達 第9回:乳幼児期の運動発達の特徴と指導 第10回:乳幼児期の生活習慣の発達 第11回:情緒的発達と運動 第12回:社会性の発達と運動 第13回:パーソナリティの発達と運動 第14回:知的能力の発達と運動 第15回:安全の指導、安全の配慮 第16回:試験				
教科書・参考書	テキスト ・河邊貴子(編著) 2008 演習 保育内容健康 建帛社 (1,470円) 参考書・参考資料等 ・幼稚園教育要領解説 2008 フレーベル館 (200円)				
評価方法・基準	① 毎回授業終了時に簡単な課題を課し、毎回の授業への取り組み・理解度を評価。(70%) ② 試験:講義内容に関して論述式による試験を行う。(30%) ①を中心に試験(②)により総合的に評価する。				
備考	幼稚園教員養成課程以外の学生の受講は原則として3年次以上とします(副専攻試験合格者(幼稚園教諭一種免許取得)はのぞく)。 授業は隔週で木曜日4.5時限に2コマ連続で実施します。 第1回目の授業は2012年10月11日(木)です。 (以降は、2012年10月25日、11月15日、29日、12月6日、20日、2013年1月10日を予定)				

学科(専攻)・科目の種別等	幼児	授業コード	E10408001	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法
	授業の方法	講義	
		期別	前期	
授業科目	保育内容(人間関係) Activities in Early Childhood Education :Human Relationships			
担当教員				
履修年次/セメスター	2年次・前期	受入人数	50名程度	
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)			
	他学部(他研究科)			
	科目等履修生	可		
教室等	教4408			
概要	幼稚園教育要領の領域「人間関係」について、乳幼児期の人間関係の発達の特徴をふまえ、保育における人とかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。具体的にはテキスト、視聴覚教材(映像)を中心に、以下の内容について講義形式で行う。			
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の特性をふまえた幼稚園教育の内容的、方法的特質を理解する。 ・幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・保育実践における保育内容「人間関係」の指導のあり方を理解する。 			
授業計画・授業内容	第1回:幼稚園教育の特質、幼稚園教育要領における5領域 第2回:領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い 第3回:乳幼児期の人間関係の発達① 子どもと養育者の関係の発達 第4回:乳幼児期の言語発達の筋道② 仲間関係の発達の 第5回:乳幼児期の言語発達の筋道③ 乳幼児期の人間関係をめぐる今日的課題 第6回:子どもと保育者の信頼関係の形成 第7回:自己発揮と自己抑制(情動のコントロール) 第8回:子ども同士のいざこざとその援助 第9回:遊びにおける人間関係① 仲間入り 第10回:遊びにおける人間関係② イメージを共有すること 第11回:遊びにおける人間関係③ 協同的活動を行うこと 第12回:遊びにおける人間関係④ ルールを守ること 第13回:乳幼児期の人間関係の臨床発達の問題① ちょっと気になる子の理解と対応 第14回:乳幼児期の人間関係の臨床発達の問題② 家庭との連携 第15回:現代の子どもを取り巻く環境と領域「人間関係」 第16回:試験			
教科書・参考書	テキスト ・森上史朗(編)(2009)『最新保育講座⑧ 保育内容「人間関係」』 ミネルヴァ書房 ・幼稚園教育要領 参考書・参考資料等 ・必要に応じて適宜指示・配布する。			
評価方法・基準	①平常点:毎回授業時に課す簡単な課題への回答(30%) ②課題レポート:乳幼児期の人間関係の発達を概観する課題への評価(10%) ③試験:第16回に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価。(60%) ● ①～③を総合的に評価する。			
履修要件	・受講者が多い場合は人数制限をすることがある。 ・受講者の人数制限をする場合は、幼稚園課程の学生と幼児教育副専攻(試験に合格した幼稚園教諭一種免許の取得をめざす者)を優先する。 ・上記以外の学生は、履修は原則として3年次以上に履修すること。 ・教育実習で3週間以上欠席する場合は、次年度に履修すること。			

学科(専攻)・科目の種別等	幼児	授業コード	E10406001	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法
	授業の方法	講義	
		期別	後期	
授業科目	保育内容(環境) Activities in Early Childhood Education :Environment			
担当教員				
履修年次/セメスター	1年次・後期	受入人数	50名程度	
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)			
	他学部(他研究科)			
	科目等履修生	可		
教室等	教4408			
概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について、乳幼児期の環境とのかかわりの実際とそれに伴う発達の諸側面の発達の特質をふまえ、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。具体的にはテキスト、視聴覚教材(映像)を中心に、以下の内容について講義形式で行う。			
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の特性をふまえた幼稚園教育の内容的、方法的特質を理解する。 ・幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の環境とのかかわりと、それに伴う諸側面の発達のあり方を理解する。 ・保育実践における保育内容「環境」の指導のあり方を理解する。 			
授業計画・授業内容	第1回:幼稚園教育の特質、幼稚園教育要領における5領域 第2回:領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱い 第3回:子どもを取り巻く環境 第4回:乳幼児期の環境とのかかわりの特徴 第5回:乳幼児期の好奇心、探究心 第6回:自然に親しみ、植物や生き物に触れること 第7回:季節により自然や生活に変化のあることに気付くこと 第8回:さまざまな物や道具にかかわって遊ぶこと 第9回:さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つこと 第10回:日常生活の中で数量や図形などに関心を持つこと 第11回:日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつこと 第12回:生活に関係の深い情報や施設に興味や関心をもつこと 第13回:現代の子どもを取り巻く環境と領域「環境」 第14回:保育内容「環境」に関連する環境構成の工夫 第15回:保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成 第16回:試験			
教科書・参考書	テキスト ・福元真由美(編)(2007)『事例で学ぶ保育内容 領域「環境」』 萌文書林 ・幼稚園教育要領 参考書・参考資料等 ・必要に応じて適宜指示・配布する。			
評価方法・基準	①平常点:毎回授業時に課す簡単な課題への回答(30%) ②課題:模擬指導案への評価(10%) ③試験:第16回に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価。(60%) ● ①～③を総合的に評価する。			
履修要件	・幼稚園課程の1年生以上の学生 ・幼児教育副専攻(試験に合格した幼稚園教諭一種免許取得をめざす学生)の学生 ・幼稚園教諭二種免許取得を希望する学生(原則3年生以上) ・教育実習で3週間以上欠席する場合は、次年度に履修をまわすこと。			

学科(専攻)・科目の種類等	幼児	授業コード	E10407201	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法
	授業の方法	講義	
		期別	後期	
授業科目	保育内容(言葉)			
担当教員				
履修年次/semester	2年次・後期	受入人数	50名程度	
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)			
	他学部(他研究科)			
	科目等履修生	可		
教室等	教4408			
概要	幼稚園教育要領の領域「言葉」について、乳幼児期の言語的発達をふまえ、保育における子どもの言葉によるコミュニケーション、絵本などの文化財とのかかわり等の具体的な言葉にかかわる保育内容の指導法を実践的に理解する。具体的にはテキスト、視聴覚教材(映像)を中心に、以下の内容について講義形式で行う。			
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の特性をふまえた幼稚園教育の内容的、方法的特質を理解する。 ・幼稚園教育要領の領域「言葉」のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の言語的発達を理解する。 ・保育実践における保育内容「言葉」の指導のあり方を理解する。 			
授業計画・授業内容	第1回:幼稚園教育の特質、幼稚園教育要領における5領域 第2回:領域「言葉」の歴史の変遷 第3回:領域「言葉」のねらい、内容、内容の取り扱い 第4回:乳幼児期の言語発達の筋道① 乳児期言語発達、コミュニケーション 第5回:乳幼児期の言語発達の筋道② 幼児期言語発達、コミュニケーション 第6回:子どもの気持ちの理解と信頼関係の形成 第7回:自分の気持ちや考えを表現すること 第8回:他者の言葉を、親しみをもって注意して聞くこと 第9回:生活に必要な言葉を使う(挨拶)こと 第10回:遊びのなかで言葉による表現をすること 第11回:言葉による伝え合いをすること 第12回:日常生活のなかで文字に親しみ関心を持つこと 第13回:絵本・紙芝居に親しみ想像の世界を楽しむこと 第14回:絵本・紙芝居の読み聞かせ 第15回:現代の子どもを取り巻く環境と領域「言葉」 第16回:試験			
教科書・参考書	テキスト ・秋田喜代美・中坪史典・砂上史子(編) 2009 『保育内容 領域「言葉」』 みらい ・幼稚園教育要領 参考書・資料等 ・必要に応じて適宜指示・配布する。			
評価方法・基準	①平常点:毎回授業時に課す簡単な課題への回答(30%) ③試験:第16回に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価。(70%) ● ①と②を総合的に評価する。			
履修要件	・受講者が多くなった場合は、人数制限をすることがある(受入れ人数は50~60名程度)。 ・受講者の人数制限をする場合は、幼稚園課程の学生と幼児教育副専攻試験に合格した者(幼稚園教諭一種の免許の取得をめざす者)を優先する。 ・上記以外の学生は、履修は原則として3年次以上にかぎる。 ・教育実習で3週間以上欠席する場合は、次年度に履修をまわすこと。			

学科(専攻)・科目の種類等	幼児	授業コード	E10405101	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法	
	授業の方法	講義・演習		
		期別	通期		
授業科目	保育内容(音楽表現)				
副題	リトミック ミュージカル				
担当教員					
履修年次/semester	3	時間数	60	受入人数	30
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)				
	他学部(他研究科)				
	科目等履修生		可		
	幼稚園課程専攻 副専攻				
教室等	教音楽棟11,教音楽棟合奏室				
概要	幼稚園での音楽活動は保育者の音楽能力・音楽活動の影響を多く受けることを認識し、保育者がどのように幼児の表現活動を引き出すかを考察する。また様々な音楽表現活動を観察、体験を通して創作活動へと展開し、総まとめとして実際に「ミュージカル」を製作、附属幼稚園で上演する。				
目的・目標	幼児の様々な音楽活動を視野にいれ、幼児期の音楽表現とその指導法について、学習する。最終的に附属幼稚園でのミュージカル上演を目標に、舞台芸術、合唱、歌唱、指揮、身体表現(ダンス)、楽器演奏などあらゆる角度から表現について考察していく。				
授業計画・授業内容	第1回:ガイダンス 音楽表現とは 第2回:ダルクロワーズの音楽教育法①:ユーリトミクスについて 第3回:ダルクロワーズの音楽教育法②:身体表現、音楽解釈、即興演奏 第4回:コダーイ・メソッド①:コダーイの音楽トレーニング 第5回:コダーイ・メソッド②:子どもの発達のためのアプローチ 第6回:オルフ①:身体創作表現 第7回:オルフ②:オルフ楽器を使用した楽器演奏 第8回:発表:グループに分かれ、身体表現を含めた発表をおこなう 第9回:舞台芸術について考える 第10回:ミュージカル鑑賞① 第11回:ミュージカル鑑賞② 第12回:オペラ鑑賞① 第13回:オペラ鑑賞② 第14回:日本の伝統芸能における身体表現 第15回:歌舞伎における音楽、身体表現 第16回:まとめ 第17回:ミュージカル上演演目の決定と配役、楽器隊を決める。 第18回～第20回 :ミュージカル①②③:合唱練習、ソロ練習、楽器隊は聴き取りして楽譜を製作する。 第21回～第24回 :ミュージカル④⑤⑥⑦:振り付けをし、楽器隊と合わせる。 第25回:ミュージカル大道具、小道具、衣装の製作 第26回～第27回 :ミュージカル⑧:背景セット、衣装もつけ、舞台転換などを考察する 第28回:ミュージカル⑨:附属幼稚園でリハーサル 不具合を調整 第29回:ミュージカル⑩:附属幼稚園でミュージカルを上演する 第30回:まとめ:上演したミュージカルのビデオを鑑賞し振り返りをおこない、レポートにまとめて提出する。				
キーワード	リトミック・ミュージカル				
教科書・参考書	「音楽教育メソッドの比較」				
評価方法・基準	授業への積極的参加 40% ミュージカルへの取り組み (グループ活動における創造的な表現活動の積極性)40% レポート提出 20% 出席:1/3以上の欠席は不可				

学科(専攻)・科目の種類等	幼児	授業コード	E1O408501	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法
	授業の方法		
		期別	前期	
授業科目	保育内容(造形表現)			
担当教員				
教室等	教4408			
概要	<p>幼児期の造形表現とその指導法について、テキストと映像からだけでなく、実際に現場で用いる多様な教材や用具に触れ表現や指導を体験することから学ぶ。前半は主に造形活動を通してその意義や物的環境の理解を深め、後半はグループでの模擬保育を通して指導計画・環境設定・言葉かけなど、人的環境にかかわる事柄について学び、教育要領から振り返る。最終的に、作品や学びの記録をスケッチブックに整理する。</p>			
目的・目標	<p>表現を通して豊かな感性を育み、幼児の造形表現指導に必要な知識と技能を修得する。すべての幼児が表現を楽しむことができるような保育を構想し、実践できる創造的な幼児教育者の礎を築く。</p>			
授業計画・授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション: 幼児の造形表現を幼児期の振り返りと映像によって概観し、授業の見直しをもつ。 2. 線描表現: 保育で用いられる描画材を理解し、クレヨンによる多様な表現について学ぶ。 3. 絵具表現: 絵具を用いた多様な技法を学び、心の開放を体験してその意義について考察する。 4. 版画表現(1): 版表現の楽しさを体験し、造形行為と表出・表現について学ぶ。 5. 版画表現(2): 多様な版画技法、ローラー遊びを体験し、環境設定について学ぶ。 6. 紙素材(1): 新聞紙・折り紙・京花紙を使った多様な表現を楽しみ、創造的な表現を行う。 7. 紙素材(2): 紙から粘土を作り、立体的な表現を行い、紙素材の可能性について学ぶ。 8. 造形表現の発達: 描画の発達について学び、小麦粉粘土を素材として視覚と触覚について考察する。 9. 模擬保育(1)感性・イメージを豊かに: 活動への導入を工夫して指導計画を立て実践する。 10. 模擬保育(2)環境を豊かに: 子どもが参加する壁面製作の指導計画を立て実践する。 11. 模擬保育(3)遊びを豊かに: ごっこ遊びや劇遊びに発展する造形活動を計画し実践する。 12. 模擬保育(4)行事を豊かに: 造形活動をいかした創造的な行事を計画し、実施する。 13. 模擬保育(5)総合的な活動: 造形活動をいかした遊びの広場を設定し、遊びを発展させる。 14. 指導形態と方法(1): コーナー保育を手がかりに指導形態について考察し、教育要領から振り返る。 15. 指導形態と方法(2): 海外(レゾジョ・エミリア)・国内の指導事例から学ぶ。 16. 試験(課題レポートを作成する。) 			
教科書・参考書	<p>榎 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林2008年</p> <p>参考書・参考資料等 テキストの該当ページに紹介されているので、各自で読み進めること。</p>			
評価方法・基準	出席状況 30% スケッチブックの評価50% 提出プリントとレポート20%			

学科(専攻)・科目の種類等	幼児	授業コード	E10407601	教育課程及び指導法に関する科目 ・保育内容の指導法	
	授業の方法	講義・実技		
		期別	後期		
授業科目	保育内容(児童文化)				
担当教員					
履修年次/semester	3年 後期	時間数	30	受入人数	50
受講対象	自学部他学科(自研究科他専攻)	可			
	他学部(他研究科)				
	科目等履修生				
教室等	教2202				
概要	絵本の特性を知ること、絵本に描かれたものを読み解くこと、創作体験などの創造的な学びを通して、子どもが生み出す文化と子どもを取り巻く文化について理解を深める。テキストや視聴覚教材を用いた講義に加えて、実践的な活動も取り入れるので、受講生には授業への主体的な参加を期待する。				
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本にあらわれた子ども・大人のイメージを読み取る経験を通じて、自らの子ども観を見直す。 ・子どもの感性や表現を豊かにし、言葉の育ちを支え、そしてなによりも人との関わりの機会をもたらし児童文化財である絵本に親しみ、その特性を知ること、保育場面において絵本を活用するための発想力や企画力を身につける。 				
授業計画・授業内容	<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:「おべんとう絵本」の制作</p> <p>第3回:「おべんとう絵本」の発表</p> <p>第4回:絵本の視覚表現性(形・色・素材・技法)</p> <p>第5回:絵本の視覚表現性(絵本の構造)</p> <p>第6回:絵本の言葉</p> <p>第7回:わたしが好きな絵本(なぜ好きかを考えてみる)</p> <p>第8回:子どもに人気の絵本(共通点を見つける)</p> <p>第9回:子どもが絵本と出会う場所(ブックスタート活動・図書館・書店 他)</p> <p>第10回:「てのひら絵本」体験</p> <p>第11回:絵本を使った保育活動例の紹介</p> <p>第12回:絵本のなかの子ども</p> <p>第13回:絵本のなかの大人</p> <p>第14回:絵本の周辺領域を概観する(美術・文学・映画・紙芝居・アニメーション・マンガ)</p> <p>第15回:授業のまとめ</p> <p>第16回:試験(レポートを作成して提出)</p>				
教科書・参考書	初回の授業で指示する。 授業の中で適宜配布、紹介する。				
評価方法・基準	授業への参加状況(30%)授業中に出す課題(20%)レポート(50%)				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が多くなった場合は、人数制限をすることがある(受入れ人数は50名程度)。 ・受講者の人数制限をする場合は、幼稚園課程の学生と幼児教育副専攻試験に合格した者(幼稚園教諭一種の免許の取得をめざす者)を優先する。 				

教育課程及び指導法に関する科目

・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

科目名	教育方法論 Media and Method for Educaion		
担当教員	[REDACTED]		
標準履修年次	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位区分	必
授業方法	講	単位数	2
準備事項			
備考			
授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)	<p>教師が備えるべき専門的力の中核となる「教育の方法・技術」について明らかにするとともに、それを身につけるために必要な知識・技能の習得とそれを活用しての指導力養成について実践的視点から考察し、身につけさせる。</p>		
授業の内容・計画	<p>第1回 教育方法論とは 教育方法の要素について 第2回 教育改革の基本的な考え方 教育課程の改訂の根拠を流れる考え方</p> <p>第3回 教育課程について 学校教育の守備範囲としての教育課程の横断的構造 第4回 自らの学びの力を育てるとは 保育・生活・総合的な学習から 第5回 カリキュラムと単元の改善、開発 学校中心カリキュラムの構築 第6回 教育課程の縦断的構造 指導と評価の一体化から、目標と指導と評価の一体化へ 第7回 プロ教師に求められる能力 教育課程全般を包括しての振り返り 第8回 教師に求められる教材研究力 教材研究の3要素 第9回 教師に求められる授業設計力 目標分析から単元指導計画へ 第10回 教師に求められる授業展開力 臨機応変で自由闊達な授業展開について 第11回 教師に求められる授業評価力 授業評価力から授業改善力へ 第12回 教師に求められる学級経営力 レイタント・カリキュラムとしての学級づくりについて 第13回 これからの教育課程の課題1 確かな学力ー習得・活用・探究ー、言語力の育成 第14回 これからの教育課程の課題2 「伝統と文化」の指導について 第15回 実践研究の方法と課題 実践研究に求められる条件</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>出席(20%)と筆記試験(80%)をもとに総合的に評価する。 なお、8割(12回)以上の出席に満たない者は、成績を不可とする。</p>		
テキスト・教材・参考書等	<p>テキスト:授業時に指示する 参考書:加藤明著, 2008, プロ教師のコンピテンシー(明治図書) 梶田毅一, 加藤明編著, 2004, 実践教育評価事典(文溪堂)</p>		
その他			

教育課程及び指導法に関する科目

・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

科目名	教育情報メディア実習(実地教育VI)		
担当教員			
標準履修年次	2年	クラス	Aクラス
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位区分	必
授業方法	実	単位数	1
準備事項			
備考			
授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)	教育の方法及び技術に関する科目として、教材の活用及び教育情報処理等に関する基本的な技術・能力を養う。 情報活用の実践力、情報社会に参画する態度とスキル、及び情報の科学的な理解について幼児・児童・生徒を指導する力を修得する。		
授業の内容・計画	1 ガイダンス [長瀬,鈴木,森広,掛川] 2 ネットワーク上の学習情報の探索と利用1[長瀬,鈴木,森広,掛川] 3 同2 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 4 電子教材の作成と活用1[長瀬,鈴木,森広,掛川] 5 同2 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 6 同3 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 7 映像教材の作成と活用1[長瀬,鈴木,森広,掛川] 8 同2 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 9 同3 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 10 同4 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 11 同5 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 12 同6 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 13 著作権の尊重と情報モラルの遵守[長瀬,鈴木,森広,掛川] 14 電子黒板の活用 [長瀬,鈴木,森広,掛川] 15 プレゼンテーションによる学習成果の発表と相互評価[長瀬,鈴木,森広,掛川]		
成績評価の方法・基準等	2つの提出課題とその発表で評価する。 ただし、実習科目として、出席は前提である。 課題への意欲的な取り組みを勘案する。		
テキスト・教材・参考書等	・「小学校教育実習―実地教育Ⅲ―」テキスト ・Webページ(学習指導要領、情報教育のてびき、等)		
その他	・「教育情報メディア実習(実地教育VI)」は「教育の方法及び技術に関する科目」に属する実習である。 ・共通講義棟(実習室5)で行う。 本授業は以下の教員養成スタンダード項目に対応しています。 17「主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる」		

教育課程及び指導法に関する科目
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

科目名	マイクロティーチング実習(実地教育Ⅴ)		
担当教員			
標準履修年次	2年	クラス	Aクラス
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金1	単位区分	必
授業方法	実	単位数	1
準備事項			
備考			
授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)	「教育の方法及び技術に関する科目」として、マイクロティーチングを通して、教材の活用等に関する基本的な知識・技術を学ぶと共に、教材の活用法及び学習指導に関する基本的な考え方や技能を修得する。		
授業の内容・計画	<p>授業内容： 教材分析及び学習指導案作成——マイクロティーチング——反省・省察という過程を繰り返しながら、少人数実習生への個別指導・グループ指導を介して、学習指導の実践的基礎力の育成を図る。</p> <p>授業計画： ①オリエンテーション（別窓、長澤） ②授業研究とマイクロティーチング（長澤） ③教材研究と学習指導案作成の基礎（長澤） ④電子黒板及び電子教科書の活用法（長澤） ⑤マイクロティーチング（①、③、⑤、⑦） ⑥マイクロティーチング反省会（②、④、⑥、⑧）（グループでの少人数指導） ⑦授業実践事例に基づく事例分析（①、②） ⑧総括と今後の課題</p>		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、「出席状況」、「授業の展開」、「基本的な技術・技能」、「授業の構成的活動」、「自己評価の状況」、「総括レポート」の6つの観点で行う。 ・実習科目として、出席状況と課題への意欲的な取り組みを重視する。 		
テキスト・教材・参考書等	・「小学校教育実習－実地教育Ⅲ－」テキスト		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロティーチング実習は、初等基礎実習(実地教育Ⅲ)の事前学習である。 ・マイクロティーチング実習は、学校教育研究センターで行う。 		

学科(専攻)・科目の種類等	幼児	授業コード	E10418001	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目
	授業の方法		
		期別	前期	
授業科目	幼児臨床心理学 Clinical Psychology in Early Childhood			・ 幼児理解の理論及び方法 ・ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
担当教員				
教室等	教4408			
概要	1. カウンセラーとは異なる教師の行う教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法の基礎にある理論を学ぶ。 2. 幼児期の子どもとその家庭に関する臨床的問題の実際、及び現代の教育現場における諸問題を理解する。 3. 多様な保護者・様々な困難を抱える子どもとのつながり方・理解の仕方の原則を理解し、内外の資源と連携しながら支援するための知識と技能を習得する。			
目的・目標	1. カウンセリングとその基礎理論について概要を理解できる。 2. 高度専門職業人を目指す者として、学校教育における教育相談の重要性を理解し、教育相談に必要なカウンセリングマインドの姿勢と技能を身に付ける。 3. 幼児期の子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、科学的な知識に基づいて多面的かつ柔軟に把握し、支援の方法が理解できる。			
授業計画・授業内容	1. 教育相談とは何か：教育相談の目的と内容 現代の子どもをめぐる諸問題 2. 教育相談とは何か：子ども理解の原則 発達の視点 生態学的理解 インクルージョンの視点 3. 教育相談とは何か：子ども理解の原則 問題行動・症状の意味 アセスメントとは何か 4. 教育相談の技法：対象理解の方法 行動観察 面接 検査 医学的診断 5. 相談の技法：カウンセリングの基礎理論 6. 相談の技法：保護者との面接の進め方 技法の基礎 7. 子どもの発達と臨床：対人関係の発達と臨床的問題 愛着 気になる子ども 8. 子どもの発達と臨床：家庭をめぐる臨床的問題 育児不安 異文化 9. 子どもの発達と臨床：ことばの発達と臨床的問題 ことばの遅れ コミュニケーション障害 10. 子どもの発達と臨床：発達障害 発達障害とは何か 11. 子どもの発達と臨床：発達障害 広汎性発達障害(1) 知的障害を伴う場合 12. 子どもの発達と臨床：発達障害 広汎性発達障害(2) 自閉症スペクトラム 13. 子どもの発達と臨床：発達障害 ADHD LD 14. 子どもの発達と臨床：親の障害の受容 15. まとめ 16. 試験			
教科書・参考書	テキスト 資料を配布する。 参考書・参考資料等 資料を配布する。			
評価方法・基準	学生に対する評価 試験(小論文)・授業の内容的参加度(授業内のロールプレイやグループ討論に対する取り組み状況と参加態度、授業内レポートの充実度)から総合的に評価する。その割合は50%対50%とする。			
備考	7/7(土)1限～5限 8/6(月)1限～5限 8/7(火)1限～5限			